

台湾においては上九流下急流の階級あり。しかるに乞食は上九流にも入らずまた下九流にも入らざる一種の賤業なり。これ乞食といえども一朝志を得るときは考科に応じ及第するときには翰林、状元（※科挙に首席合格すること）の地位を得あたうものなりという。

宋の時一富豪家に一女あり。父曰く、「汝八月十五日綉球（まり）を弄し、その綉球あたりたるものを婿となすべし」と、女子その言のごとく綉球を弄ぶ。時に階下に一乞食あり、呂蒙正という。婦女の綉球たまたまその乞食にあたる。女子曰く、「綉球今この乞食にあたる、いれて婿となすべし」と。父母怒って曰く、「我が富豪をもってこの乞食をいれるに忍びず」と。遂にいれず、のち呂蒙正、志を得、状元に昇る。時の人唱って曰く、「八月十五日是中秋。千金小姐抛綉球。綉球抛落呂蒙正。爹媽（父母）遂去不収留。」

すなわち八月十五日夜はこれ中秋なり、千金の令嬢綉球を弄す、綉球落ちて呂蒙正にあたる、しかれども父母これを遂去して家にいるを許さざりし意。これ一の小説に過ぎざるもって乞食の下九流にあらざるを知るべし。

第一節 乞食の種類

打響鼓 [パアヒアヌコオ] 打響鼓とは、二三尺の竹筒の先に蛇の皮を貼りつけたるものを打ちながら種々たる歌を歌って錢を乞う。

抽籤仔 [ウチアムアア] 抽籤仔とは、月琴の柄に総（ふさ）を付け客をして総を抽（ひ）かしめ、総に記しある歌題により琴を弾じて歌を唱い錢を乞うものなり。

跳宝 [チアウボヲ] 跳宝とは、竹の一節より少しく長く切りたる節と節の一側をへぎて、その中に赤紙に包みたる水銀を盛りたる一端を持ちて、一端を上下すれば水銀玉の転じ来たり転じ去るを子女に見せ喜ばしめ「頭家呵跳宝寄来点灯發財」と称し錢を乞うものなり。

揺錢樹 [イオチイチウ] 揺錢樹とは、奇麗なる一文錢を運び五六枚重ねて紅糸に通じ、これを榕樹（ガジュマル）の小枝に掛け正月において家ごとに持ち行き「給你大趁錢較加拾查某孫」と唱え錢を乞うものなり。

其狗踏对 [キイカウタツイ] 其狗踏对とは、犬芸をなして金錢を乞うもの。我が猿使いのごとし。

破額乞食 [ポアヒアキツチア] 破額乞食とは、刀をもって己が額を切り人に見せしめて錢を乞うものなり。

王鉄環 [オンチイコアヌ] 王鉄環とは、三つの輪をもって連環し、または脱してこれを見せ錢を乞うものなり。

擋胸乞食 [ツンヒエンキツチア] 擋胸乞食とは、一尺四方の石にて自分の胸を打ちて錢を乞うものなり。

打七响乞食 [パアチツヒアンキツチア] 打七响乞食とは、草にて作りたる草環を頭にはめ、煤煙をもって顔を黒色に染め、両手にて膝、肩、手等を打ち、七回七様の音をなさしめ錢を乞うものなり。

無芸乞食 無芸乞食とは、何ら芸なくして人の門頭または廟前にありて「頭家呵好心好量一個錢分給給我給你做狀元子举人孫」と称して錢を乞うものなり。

第二節 乞食頭その他

乞食頭 [キツチアタウ] 昔乞食頭（丐首）と称するものあり。乞食の監督をなす。丐首は入寮の際十六文を徴し、寢台を貸与するときは一ヶ月八十文を納めしという。そうして丐首等はその収入すこぶる多くいずれも数千円の資材ありて、魴舢頂寮の黄俊なるものは「放重利」（高利貸）をなし、同下寮の林俊は質屋を営みおりしというをもってみれば、乞食頭の収入推して知るべきなり。なお乞食の信仰する神は呂蒙正状元（※呂蒙正は北宋初期の宰相。乞食から科挙に主席合格したとされる。冒頭部を参照）なりという。

乞食寮 [キツチアリョウ] 乞食寮とは元の養濟院にして、台南においては鄭仔寮すなわち今の新公園（※現在の台南公園）と中学校（※現在の国立台南第二高級中学）の間にありしなり。台北においては魴舢の五泉廟（泉漳分類械闘（※清代台湾で発生した族群間の武力衝突）の際死者を祭らんがため設けたるもの）これを頂寮（乞食寮すなわち小屋）といい、また別に下寮とて乞食小屋ありて乞食を收容し、これを監督するものは乞食頭なりしという。